

国指定名勝

おくのほそ道の風景地

草加松原

草加松原は、市中心部を南北に流れる綾瀬川右岸沿いの遊歩道にある、約1.5km・634本もの松が並ぶ並木道です。俳聖松尾芭蕉の記した『おくのほそ道』にも登場する「草加宿」の北側に位置し、江戸時代から日光街道の名所として知られてきました。戦後、車の排気ガスなどにより著しく本数を減らしましたが、地元関係者などによる保護活動により現在の姿に復活しました。壮観な松並木の風景は、今なお『おくのほそ道』の時代の雰囲気伝える一連の風致景観として評価され、国の名勝に指定されています。

このような歴史的な雰囲気を感じ、触れることができる周辺スポットをご紹介します。

「おくのほそ道」に触れる



「国指定名勝

おくのほそ道の風景地 草加松原」標識

草加松原が「国指定名勝」になったことを記念して建立された標識です。松尾芭蕉が『おくのほそ道』の旅を始めた元禄時代の華やかさと、宿場町として栄えた草加の力強さをコンセプトに、庭園デザイナーの加藤貢氏によりデザインされました。揮毫は、草加市ともゆかり深い日本文学研究者で文化勲章受章者のドナルド・キーン氏によるものです。石板には紀行文『おくのほそ道』の行程図を彫り込んでおり、芭蕉の足跡をご覧いただくことができます。



松尾芭蕉翁像

奥の細道旅立ち300年を記念して建立されました。像は右手に杖を持ち、笠をかけ、友人や門弟たちとの別れを惜しむかのように、千住方面を振り返る「見返りの姿」です。



松尾芭蕉文学碑

「おくのほそ道」の「その日やうやう草加といふ宿にたどり着きにけり」の条が刻まれています。



河合曾良像

市制50周年を記念して、おせん公園に建立されました。河合曾良は奥の細道の旅に随行した芭蕉の門人です。



百代橋

草加松原遊歩道に2つある太鼓型の橋の1つです。昭和61年に建設され、橋名は「おくのほそ道」の「月日は百代の過客にして…」にちなんで名付けられました。橋の上からの松並木の眺めがよく、絶好のビュースポットとなっています。

「おもてなし」を感じる



望楼

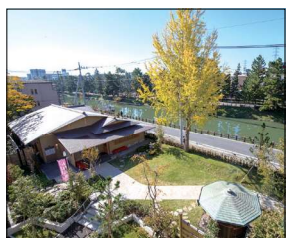
石垣の上に建つ、埼玉県産のスギ、ヒノキを使った木造の五角形の建物です。内部は、らせん階段になっており、草加松原を見渡せます。また、午後7時から午後10時までライトアップされ、川面に望楼が映し出されます。



草加宿芭蕉庵

埼玉県産のスギやヒノキを使用した休憩舎を改修し、平成30年5月16日にオープンしたお休み処です。草加せんべいなどの地場製品の販売や、ボランティアの方による観光案内を行っています。なお、草加宿芭蕉庵付近の札場河岸公園では、春には桜、秋には紅葉と四季折々の姿を見ることができます。

☎048-948-6882



漸草庵 百代の過客

日本文学研究者のドナルド・キーン氏から命名・揮毫いただいた木造平屋建ての数寄屋建築。茶道・華道・琴・三味線など、草加市民の和の文化活動の拠点です。なお、同施設内には、市内外から訪れた方のためのお休み処もあり、有料で呈茶サービスも行っています。

☎048-931-9325



伝統産業展示室・売店「ぱりっせ」

草加市文化会館1階に常設され、草加の3大地場産業であるせんべい・ゆかた染め・皮革の歴史や製造工程の展示紹介をしています。また、地場製品の販売や、せんべいの手焼き体験、クラフト体験教室(要予約)なども行っています。

☎048-931-1970

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館となる場合があります。

国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」を含む様々な観光情報を発信しています。



発行：草加市文化観光課 (☎048-922-2403)

